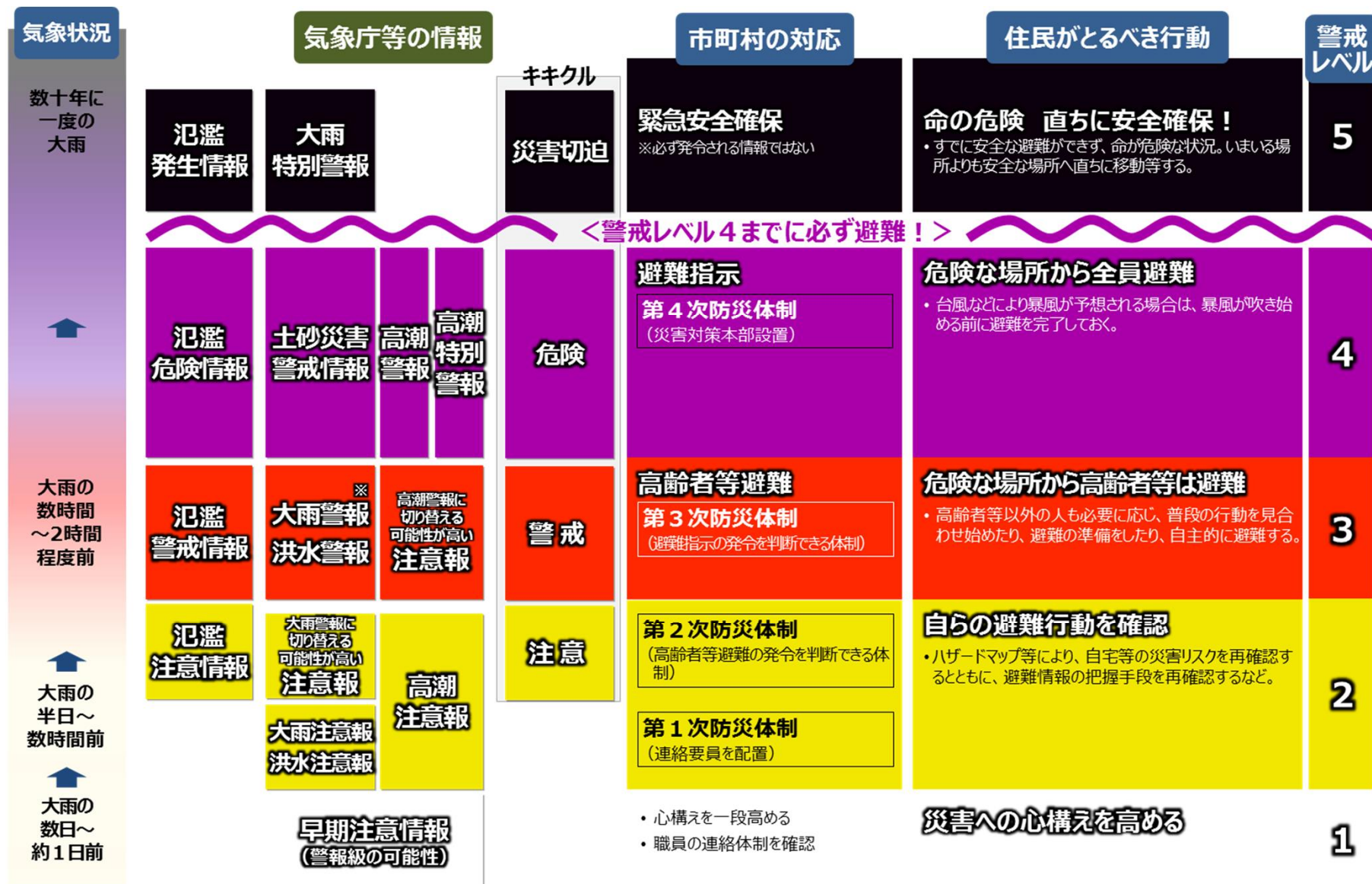


防災気象情報に関する検討会について

令和6年6月
水管理・国土保全局、気象庁

5段階の警戒レベルと防災気象情報

○警戒レベル
：市町村が発令する避難情報等に付されるもの
○相当する警戒レベル
：国や都道府県等が発表する防災気象情報に付されるもの



※ 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。

「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成

＜開催趣旨＞

防災気象情報については従前より「情報の数が多すぎる」「名称がわかりにくい」といった課題があり、「防災気象情報の伝え方に関する検討会」においては「防災情報全体の体系整理、及び個々の防災気象情報の抜本的な見直しを行うべき時期に來たと捉え、中長期的に腰を据えて検討していくべき」との提言を受けた。

これを受け、防災気象情報全体の体系整理や個々の防災気象情報の抜本的な見直しなどの中長期的な検討事項を中心に議論を行う場として開催。なお、事務局は水管理・国土保全局と気象庁が共同で運営。

＜開催実績・スケジュール＞

- ✓ 令和4年1月24日 第1回
- ✓ 令和4年3月14日 第2回
- ✓ 令和4年5月26日 第3回
- ✓ 令和4年7月25日 第4回
- ✓ 令和4年9月9日 中間とりまとめ公表
- ✓ 令和5年12月6日 第5回
- ✓ (SWG※とりまとめ公表)
- ✓ 令和6年2月19日 第6回
- ✓ 令和6年3月12日 第7回
- ✓ 令和6年5月14日 第8回

⇒ 令和6年6月を目途に最終とりまとめを公表予定

※ 警戒レベル相当情報の体系整理については、サブワーキンググループ（SWG）において検討

＜有識者委員（敬称略）＞

令和6年4月現在、敬称略、五十音順

委員	所属
池内 幸司	一般財団法人 河川情報センター理事長・東京大学 名誉教授
牛山 素行(SWG座長)	静岡大学 防災総合センター 副センター長 教授
大原 美保	東京大学大学院 情報学環 教授
小山内信智	一般財団法人 砂防・地すべり技術センター 砂防技術研究所長
片田 敏孝	東京大学大学院 情報学環 特任教授
国崎 信江	危機管理教育研究所 代表
出世ゆかり	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 主任研究員
関谷 直也	東京大学大学院 情報学環 教授
田中 淳	東京大学大学院 情報学環 特任教授
堤 浩一朗	LINEヤフー株式会社メディアカンパニー ヤフーメディア統括本部 Yahoo!天気・災害 企画
新野 宏	東京大学 名誉教授
福島 隆史	一般社団法人 日本民間放送連盟 災害放送専門部会 幹事 (TBSテレビ 報道局 解説委員)
保科 泰彦	日本放送協会 報道局 災害・気象センター長
南 利幸	NPO法人 気象キャスターネットワーク 顧問
森 信人	京都大学 防災研究所 教授
矢守 克也(座長)	京都大学 防災研究所 副所長 教授

- シンプルでわかりやすい防災気象情報の再構築に向け、防災気象情報全体の体系整理や個々の情報の見直し、受け手側の立場に立った情報への改善などを取りまとめ。

警戒レベル相当情報の体系整理

検討会の最終案は、座長・副座長に一任して検討中

◎ シンプルでわかりやすい情報体系・名称に整理

【洪水】：氾濫による社会的な影響が大きい河川（洪水予報河川、水位周知河川）の外水氾濫を対象とし、河川ごとの情報とする。
これ以外の河川の外水氾濫については、内水氾濫と併せて市町村ごとに発表する【大雨浸水】に関する情報とする※¹。

【土砂災害】：発表基準の考え方を統一し、災害発生の確度に応じて段階的に発表する情報とする。

【高潮】：潮位に加えて沿岸に打ち寄せる波の影響を考慮し、災害発生又は甚しき被害までの猶予時間に応じ段階的に発表する情報とする。

		洪水に関する情報	大雨浸水に関する情報 ※ ¹	土砂災害に関する情報	高潮に関する情報	警戒レベル相当情報 以外の特別警報、 警報、注意報
		氾濫による社会的影響大の 河川（洪水予報河川、水位 周知河川）の外水氾濫	内水氾濫及び左記以外の 河川の外水氾濫			
発表単位		河川ごと	基本的に市町村ごと	基本的に市町村ごと	沿岸ごと又は市町村 ごと※ ²	基本的に市町村ごと
警戒 レ ベル 相 当 情 報	5 相 当	レベル5 氾濫特別警報（氾濫発生）	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	警戒レベル相当 情報としての位置 付け無し
	4 相 当	レベル4 氾濫警報	レベル4 大雨警報	レベル4 土砂災害警報	レベル4 高潮警報	〇〇特別警報
	3 相 当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	〇〇警報
	2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	〇〇注意報 例：暴風、大雪等

警戒レベル相当情報
以外の警報等（暴風、
大雪等）の体系整理
については、改めて検
討の場を設ける。

情報名称の最終決定は、法制度や実際の情報の運用、伝え方なども踏まえ、気象庁・国土交通省が行う。

※¹ 警戒レベル相当情報への位置づけについては、関係機関で今後の課題として検討。

※² 発表単位をどうすべきかについては、情報利用者の視点も踏まえつつ、引き続き関係機関で検討。

※防災気象情報に関する
検討会（第8回）の
資料4－1に追記

解説情報の体系整理

◎ 情報の性質を把握できるよう分類して提供

- 線状降水帯をはじめとした具体的な極端現象が発生または発生しつつある場合にその旨を伝える「極端な現象を速報的に伝える情報」と、現在及び今後の気象状況等を網羅的に伝える「網羅的に解説する情報」に分類して提供。
- それぞれの区別がつくよう統一的な情報名称とし、「線状降水帯」などのキーワードを付すことにより情報へのアクセスを改善。

極端な現象を速報的に伝える情報・・・「気象防災速報」

現在

- 顕著な大雨に関する気象情報
- 記録的短時間大雨情報
- 顕著な大雪に関する気象情報
- 竜巻注意情報

整理後

- 気象防災速報（線状降水帯発生）
- 気象防災速報（記録的短時間大雨）
- 気象防災速報（短時間大雪）
- 気象防災速報（竜巻注意／竜巻目撃）

網羅的に解説する情報・・・「気象解説情報」

現在

- 全般/地方/府県気象情報
- 全般台風情報

整理後

- 気象解説情報（※）
- 気象解説情報（台風第○号）

※何に注目した情報なのかがわかるよう、括弧内にキーワードを付す。

防災気象情報の最適な活用に向けて

- ・ 防災気象情報の基盤となるデータの提供の更なる推進と共に、コンピュータで容易に処理できるよう機械可読性の改善も進める必要。
- ・ 「プッシュ型」の防災気象情報とあわせて、ホームページ等に掲載する「プル型」のコンテンツの活用を推進すると共に、当該コンテンツの充実を図ることが重要。
- ・ 防災気象情報を受け取った者が自ら考え主体的に行動することができる社会の実現を目指し、以下を推進する必要。
 - 防災気象情報の特徴・特性に対する理解が社会において深まるよう、平時から知見を積み上げられる環境の構築（ホームページへの解説資料の掲載等）
 - 国による普及啓発活動に加え、様々な関係主体（教育機関、専門家、報道機関等）による普及啓発活動の推進

現状

洪水に関する情報					大雨浸水に関する情報
分類	洪水予報河川	水位周知河川		洪水予報河川・水位周知河川以外の河川	
河川数	429河川	1,774河川		約20,000河川※1	—
発表主体	河川事務所または都道府県と気象台	河川事務所または都道府県	気象台	気象台	気象台
発表単位	河川ごと	河川ごと	市町村ごと	市町村ごと	市町村ごと
対象とする現象	外水氾濫	外水氾濫	外水氾濫 湛水型の内水氾濫	外水氾濫 湛水型の内水氾濫	内水氾濫による浸水 (外水氾濫による浸水※2)
発表指標	【2～4相当】 水位（実測・予測） 【5相当】 実現象（確認）	【2～4相当】 水位（実測のみ） 【5相当】 実現象（確認）	流域雨量指数 表面雨量指数 (解析・予測)	流域雨量指数 表面雨量指数 (解析・予測)	表面雨量指数 (流域雨量指数※2) (解析・予測)
情報名称	5相当	氾濫発生情報	氾濫発生情報		【5相当】大雨特別警報 (浸水害) ※2
	4相当	氾濫危険情報	氾濫危険情報		
	3相当	氾濫警戒情報	氾濫警戒情報	洪水警報	大雨警報（浸水害） 大雨注意報 警戒レベル相当情報としての位置づけなし
	2（相当）	氾濫注意情報	氾濫注意情報	洪水注意報	

検討会の最終案は、座長・副座長に一任して検討中

※防災気象情報に関する検討会（第8回）の資料4－1に追記

※1 洪水キキクルで対象としている河川数（準用河川や普通河川も含まれる）

※2 大雨特別警報(浸水害)のみ外水氾濫も対象とする

改善（イメージ）

洪水に関する情報			大雨浸水に関する情報 (洪水予報河川・水位周知河川以外 (その他河川)の洪水に関する情報を含む)
分類	洪水予報河川	水位周知河川	
河川数	429河川	1,774河川	—
発表主体	河川事務所または都道府県と気象台	関係機関が協力して発表	気象台
発表単位	河川ごと	河川ごと	市町村ごと
対象とする現象	外水氾濫	外水氾濫	内水氾濫による浸水 (湛水型の内水氾濫も含む) その他河川の外水氾濫
発表指標	【2～4相当】 水位（実測・予測） 【5相当】 実現象（確認）	【2～4相当】 水位（実測のみ） 【5相当】 実現象（確認） 〔流域雨量指数※3〕 (解析・予測)	表面雨量指数 流域雨量指数 (解析・予測)
情報名称	5相当	レベル5 氾濫特別警報（氾濫発生）	レベル5大雨特別警報
	4相当	レベル4 氾濫警報	レベル4大雨警報
	3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3大雨警報
	2（相当）	レベル2 氾濫注意報	レベル2大雨注意報

※3 住民等に対し今後の水位の見込みを伝える際に活用

警戒レベル相当情報に位置付けること等について、今後の課題として事務局にて関係機関の協力も得て検討

【土砂災害】

情報名称の最終決定は、法制度や実際の情報の運用、伝え方なども踏まえ、気象庁・国土交通省が行う

＜現状＞

土砂災害に関する情報		
発表主体	都道府県と気象台	気象台
発表単位	市町村ごと	市町村ごと
発表指標	60分雨量（解析・予測） 土壌雨量指数（解析・予測）	土壌雨量指数 （解析・予測）
情報名称	5相当	大雨特別警報（土砂災害）
	4相当	土砂災害警戒情報
	3相当	大雨警報（土砂災害）
	2	大雨注意報

＜改善（イメージ）＞

土砂災害に関する情報		
発表主体	関係機関が協力して発表	
発表単位	市町村ごと	
発表指標	60分雨量（解析・予測） 土壌雨量指数（解析・予測）	
情報名称	5相当	レベル5 土砂災害特別警報
	4相当	レベル4 土砂災害警報
	3相当	レベル3 土砂災害警報
	2	レベル2 土砂災害注意報

検討会の
最終案は
座長・副
座長に一
任して検
討中

※防災気象情報
に関する検討会
（第8回）の資
料4-1に追記

【高潮】

＜現状＞

高潮に関する情報		
発表主体	都道府県	気象台
発表単位	沿岸ごと	市町村ごと
発表指標	潮位（実況）	潮位（実況・予測）
情報名称	5相当	高潮氾濫発生情報
	4相当	高潮特別警報 高潮警報
	3相当	警報に切り替える可能性が高い 高潮注意報
	2	高潮注意報

＜改善（イメージ）＞

高潮に関する情報		
発表主体	関係機関が協力して発表	
発表単位	沿岸ごとまたは市町村ごと※	
発表指標	波浪のうちあげ高（実況・予測） 潮位（実況・予測）	
情報名称	5相当	レベル5 高潮特別警報
	4相当	レベル4 高潮警報
	3相当	レベル3 高潮警報
	2	レベル2 高潮注意報

※ 情報利用
者の視点も
踏まつつ、
引き続き関
係機関で検
討